

大いなる幻影 (La Grande Illusion)

観賞日 2023年8月14日 上映時間 114分

【概要】

制作 1937年 フランス
監督 ジャン・ルノワール
脚本 シャルル・スパーク、ジャン・ルノワール
音楽 ジョゼフ・コズマ
撮影 クリスチャン・マトラ
出演 ジャン・ギャバン (マレシャル中尉)、ディタ・パルロ (エルザ)
ピエール・フルネー (ド・ボアルデュー大尉)
エリッヒ・フォンシュトロハイム (ラウフェンシュタイン大尉)
マルセル・ダリオ (ローゼンタール中尉)



【あらすじ】

第一次世界大戦下、フランス軍のド・ボアルデュー大尉とマレシャル中尉の乗った飛行機がドイツ軍に撃ち落され、二人はドイツの捕虜収容所に収容される。墜落させたドイツの将校、ラウフェンシュタイン大尉は同じ将校である二人を食事に招く。ボアルデューとラウフェンシュタインは共に貴族出身の職業軍人で戦争では敵味方に分かれているが、友情を感じていた。部屋に戻ったマレシャルは同部屋になったユダヤ人将校ローゼンタール中尉から脱走計画が進行していることを聞く。このトンネルを使った脱走計画を決行しようとしていた矢先、他の収容所への移動が命じられる。移動先は南ドイツの古城。所長は、あのラウフェンシュタイン。ラウフェンシュタインはボアルデューとの邂逅を喜ぶ。しかし、場所は変わっても、捕虜の関心事は自由を求めての脱走。三人は混乱に乗じて脱走を試みるがボアルデューがラウフェンシュタインに見つかり。ラウフェンシュタインは断腸の思いでボアルデューに発砲する。脱走に成功したマレシャルとローゼンタールは近くの農家に匿われる。マレシャルは孤独な女主人エルザと恋仲になる。やがて、脱走兵二人はスイス方面に向かうが、そこにドイツ兵が現れて・・・

ジャン・ルノワールの名を全世界に広めた、映画史に残る名作。

【解説】

■ポイント

●戦争の変質

19世紀までの戦争は通常、貴族が指揮をして遂行されていたが、第一次大戦では国民皆兵制度による総力戦となり、一般人でも職業軍人となり戦争遂行の中心的存在になることが可能になっていた。これが、ヨーロッパ社会全般の貴族没落に拍車をかけることになった。

●受賞 (第11回アカデミー賞)

作品賞にノミネート (外国映画では初ノミネート)

●評価

大アンケートによる洋画ベスト 150 (文春): 第5位 (1988年)

外国映画史上ベスト 10 (キネマ旬報): 第7位 (1989年)

■見どころ

●ボアルデューとラウフェンシュタインとの貴族同士の友情

敵味方でありながら、貴族出身の職業軍人で互いに貴族の没落を予知していた

●フランス人、ユダヤ人、ドイツ人の国境を越えた友情と愛情

マレシャルとローゼンタールの友情

マレシャルとエルザの愛情